

「市民と議会をつなぐ意見交換会」 報告書

開催日時	令和元年11月23日（土）	参加団体	町内会・自治会・町内会等連合会 三原市社会福祉協議会 みはらウィメンズネットワーク 三原市PTA連合会 三原商工会議所 三原臨空商工会 三原老人クラブ連合会 民生委員・児童委員
	10時00分から 11時47分		
開催場所	三原市議会議事堂（委員会室）	参加人数	40人 （参加団体35人 一般参加5人）
出席議員	委員長 杉谷辰次 副委員長 木村尚登 児玉敬三 亀山弘道 新元昭 陶範昭 岡本純祥 寺田元子		

テーマ 「地域公共交通について～交通弱者の対策について～」 (厚生文教委員会)

聴取した質問・意見・要望など		議員の意見・回答など
本郷ふれあいタクシー	本郷ふれあいタクシーは、娯楽などには使用できないなど利用に制限があり、利用者から苦情を受けることがある。 利用方法を巡って、利用者とのトラブルも多い中、赤字が多くでた場合には、町内会が補填しなければならないなど、運営側の負担は大きい、一人でも喜んでくれる人がいれば、運行を継続していきたい。 事務所が古く、エアコンの修理など維持費が必要である。さらに耐震性が心配である。 ジャンボタクシーの改修費及び新型車両の導入に必要な経費などの補助をしてほしい。	デマンドタクシーやふれあいバスの運行など、6地域の方々の取り組みを直接お聞きし、苦勞されながらも事業継続のために努力されてることを受け止めさせていただいた。 公共交通の利用者の声をしっかり聞いて計画を立てていく必要があると感じた。
久井ふれあいバス	利用者が減少している。コミュニティバス方式(停留所方式)よりもドア・ツー・ドアのデマンド方式を望まれていると思う。 久井町で路線バスを最も利用しているのは高校生である。バスの便数が減れば、教育環境の低下につながるため、便数を維持してほしい。 高校生に対し、バス通学費の補助をしてはどうか。	地域コミュニティーを大事にしながら交通弱者の問題をどのように解決していくかを考えていかなければならないと感じた。 アンケート調査を行う場合は利用者本人からとる必要がある。
大和ふれあいバス	利用者が減少しているが、今は利用しないが今後は利用したいと考えている人が多いことは、市が実施したアンケート結果から分かっている。	
佐木島循環バス	交通弱者は他に交通手段が無いため、この事業の継続を要望している。	
幸崎町渡瀬・奥三地区おでかけ号	高齢化が進んでいるため、今後も事業を継続したいと考えている。 スーパーがなくなり、買い物に困っている方が多い。 各地域の実情を把握し、市全体の地域公共交通のあり方を検討してほしい。	

聴取した質問・意見・要望など		議員の意見・回答など
シハ ー 幡 さ 町 く 民 ら タ ク	町内行事の際に臨時便を運行したいので、臨時便に対する予算の増額をお願いしたい。 時刻表の設定など、弾力的な運用できるように検討してほしい。	
そ の 他 の 意 見	地域公共交通を支えるという意識の醸成や情報を共有する場が必要である。お互いに情報を共有し、公共交通の利用率を高めることが、地域公共交通の維持につながるのではないかと。市民一人一人の意識改革が必要。 バスの便数を増やさなければ、利用者は減る。小型の無人バスを導入し、増便するなど新しいアイデアが必要。 福祉や子育てを念頭にした公共交通を行わなければ、地域のニーズに対応できない。 企業との連携(協賛金など)も検討してはどうか。地域が地域を支えることが大切である。 デマンドタクシーは町内の利用に限られている。近隣の市町と連携し、行政区域を越えて利用できるよう検討してほしい。 高齢者や障害者など福祉施策としての地域公共交通を考えてほしい。 公共交通について考えるうえで、自家用車を利用しない体験を試みてはどうか。(不便さの体験) 大和ふれあいタクシーでは市外に行くことができない。他市町へ行くことができるよう検討してほしい。 地域の実情が違いすぎるため、統一したサービスは難しい。地域の実情に応じた公共交通がどうあるべきかを市議会で提言してほしい。きめ細やかな対応を望む。	路線バスの便数が減っていることは大きな課題である。市民の声を丁寧に聞き、市民・行政・バス事業者が一体になり、できることから取り組むことが重要である。